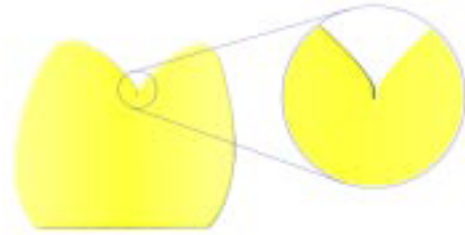


虫歯予防や、初期の虫歯で歯を削ると逆に穴が大きくなってしまいうようなときに、シーラントという治療を行います。シーラントはレーザーによる局所の殺菌と虫歯予防を行った後に、フッ素を含有した材料を歯の溝に詰める治療法です。

## I . 歯の溝について

歯の噛み合せの面には食べ物を効率よく噛むために起伏があり、それによって一番深い谷間には溝があります。その溝のことを”裂溝”<sup>ちひこう</sup>といい、溝が集まって一番深くなっている部分を”小窩”<sup>しょうか</sup>といいます。右の図は歯の断面と列溝部を拡大した様子を表したのですが、裂溝部では歯の内部まで溝が入り込んでいます。これは歯の発育の時点で左右のエナメル質が融合する際にできたものです。またこの部分は石灰化の低い（カルシウム濃度の低い）エナメル質によって形成されていて、プラック（歯垢）も取り除きにくいので、特に虫歯になりやすい部分です。



## II . 削らない治療

虫歯の初期段階は脱灰（カルシウムの溶出）から始まります。その次にエナメル質の崩壊へ進みますが、ごく初期の虫歯では治療のため歯を削ると虫歯以上に穴が大きくなってしまいうこともあり、その次にまた虫歯になったときにはそれ以上の大きさになっているため、できるだけ最小の処置で済ませたいことがあります。ここでレーザーを用いて虫歯の部分だけを最小限に除去し、耐酸性を付与した後にシーラントを詰め、その後経過観察を行います。

## III . 治療例



裂溝に初期の虫歯  
があります



レーザーを  
照射します



シーラントを詰めまし  
た

## IV . 治療後

シーラントは削らずに詰めるため、長期の使用で脱落する可能性があります。フッ素塗布と同じく経過観察が必要ですので、定期検診にお越しください。